資料１－７

○報告書「家庭教育の在り方」プレゼン模範説明（執筆者の想いの確認）

報告書の今後の広報、周知活動を行っていくにあたり、乳幼児・未就学児編、小学生編、中学生・高校生編、それぞれの主たる執筆者である、鈴木委員、萩原委員、松本委員に模範説明をしてもらい、執筆者の思いなどを確認した。

当日の質疑、意見等をまとめたものは次のとおり。

【説明方法全般】

・説明時間の基本は15分を考えている。説明先でいただける時間で対応するしかない。
・ずっと話しているのは聞いて貰えないので、その対策として、途中で質問したりする。また、質疑応答の時間を取る。
・説明するかたが自分で説明しやすいよう工夫してやってくれればいいのでは。
・説明する人とパワーポイントを操作する人とどこかで動かすタイミングを打ち合せておかないと合わせるのが難しい。できれば説明する人がパワーポイントを操作するほうがいいのでは。演台のところにパソコンを置けば操作も可能。
・小学校低学年から高学年の保護者がいる機会に、説明者が複数人いれば低学年と高学年に分かれることができて対応できるが、１人しかいないと大変である。
・日本人は生真面目のかたが多いから、配布資料として示されると読んでしまう。手元に資料が配布されるとパワーポイントと同じかなと読んでしまい、講師の話しが耳に入ってこない。配布資料は説明が終わったあとに渡すぐらいがいいのでは。
・パワーポイントと説明の意思統一がされていないので、行き違いが起きてしまう。パワーポイントを使うなら、パワーポイントの原稿をもらって修正したり、スライドの順番を入れ替えたりして説明しやすいように加工していけばいいと思う。説明を聞いていて、やはり、話しに集中して聞いた方がいいと感じた。
・報告書をホームページに挙げてあるので、配布できなくても配布資料にＱＲコードを記載することで、興味を持ったかたにＱＲコードを読み込んでもらい見てもらうことができる。
・実際に聞いてもらう人達はパワポ資料を手にしないで配布資料をみるということでいいか。
　→今はそういう考え方。皆さんに配布するのは配布資料。

【パワーポイント資料内容】

・出産前のお母さんの心のケアのところは、そこだけ取り出して別物として取り上げてもいいかなと思う。出産後のことは、また次の機会にしましょうと簡単に紹介するだけにしていいのでは。
・出産後のお母さん達には、出産前のことはまた読んでみてくださいとしたらどうか。乳幼児のとき、未就学児のとき、その場その場で話す“濃さ”を変えていけばいい。
・「お母さんあなたならどうします？」と声をかければ面白くなるのでは。説明の数をこなしていかないと見えてこないところもあるのかな。
・パワーポイントは文字が多いと文字を追ってしまい話しが入ってこない。言葉は一

言、単語でいい。写真や絵を入れる。コラムを入れるのは止めたほうがいい。ゴシックで大きい文字で。一行でいい。極端なことを言えば、一番上の文言だけでもいい。空いたところにメモしてもらう。配布資料に書いてあるからとアンダーラインを引いてもらう。大きい文字や文言を少なくすることによって遠くからもパワーポイントが見やすくなる。

・報告書の作成協議を行っている段階から、「親育て」の表現を使っているが、聞く側からすると「親育て」というと上から言われているように取られそうなので、「親育ち」がいいのでは。

→ただ、子育てを通して、親自体が子供に育てられるのだよということなら、上から言われていると感じないか。

→報告書の中では、親も一緒に成長しましょうと表現しているので、いいのではないか。

・パワーポイントは執筆者と相談しながら修正をかけ、説明しやすいようにしていくことに対して承諾していただいた。

【修正・確認事項】

① 効果的な応援団の言葉の例として、「話しかけるきっかけとなる」とか「子どもの気持ちに共感する」とあるが、パワポ資料（資料１－１）に記載するか。

→配布資料に記載することとし、その旨を説明の中でお話しし、いくつか例として挙げる。

② パワポ資料及び配布資料は、報告書（提言書）の順番に合わせる。

③ 処方箋については配布資料に掲載する。内容は松本委員のものを掲載する。ただし、パワポ資料には処方箋の構成部分、目次部分を掲載する。

④ コラムは、配布資料に掲載する。